根室地区　別海町立別海中央小学校長　稲村　和典　理事

第５分科会「豊かな人間性」の趣旨説明者として参加した。分科会では、討議の柱を二つ設定し、６グループに分かれて活発な協議が行われた。「経営ビジョンと課題の明確化」「マネジメント」という観点で次のようにまとめた。

討議１「よりよい社会を創る人権教育の推進」に関わって。活動の評価とリフレクションを大切に、教員や子どもに価値付けることや、「チーム学校」として、人権教育を推進する校内組織体制の整備や人権教育の目標を具現化するための計画的な経営が大切である。

討議２「豊かな心を育む道徳教育の推進」に関わって。「特別の教科道徳」が考える道徳・議論する道徳への転換を意識化させることの重要性や、道徳教育は全ての教育活動と関連させ効果的に取り組ませるための仕掛けが大切である。

分科会全体のまとめとして、豊かな人間性を育む教育を推進するために、教育目標の重点に位置付けたり、目指す子ども像を示したりしながら、チームとして目指すゴールの見える化をすること。また、学校が地域の学びや子育ての核となることを全体で確認して分科会を終了した。

この分科会は苫小牧文化交流センターで行った。空調設備はなかったものの、部屋の広さや場の設定など話しやすい環境の中、活発にまた明るい雰囲気で協議が進み、有意義な時間となった。

趣旨説明者として参加し、「分科会のまとめと今後の方向性」では、あらかじめ読み原稿は用意していたが、話合いの内容も加味しながら、かつ各学校の実践に繋がる形でまとめなければならないということもあり、汗をかきながらも必至になってまとめるなど、自分にとって良い勉強の機会となった。

帯広地区　帯広市立明星小学校長　杉本　伸子　理事

「世界とつながる北のゲートウエイ苫小牧から　未来を紡ぐ子どもたちに豊かな感性と想像力を」という明るい未来を展望するキャッチフレーズの通り、大会全体を通して、活気と活力を感じる大会であった。

佐藤教育長、大石会長、喜名会長の挨拶や祝辞においては、今日的諸課題について考えていくべき視点を数多く示していただいた。二日目、安孫子薫氏の「ディズニーの現場マネジメント～すべてはゲストのハピネスのために～」の講演には、たいへん感銘を受けた。

帯広市からは 14 名の校長が参加したが、講演内容に感銘を受けて、10 月の校長会に講演内容をまとめたものが配付された。「私たちの仕事が教育を通してハピネスを届ける。」と言うことを、改めて感じ胸が熱くなる思いがした。

道小研究大会の華は、各研究の分科会ではないかと思っている。帯広市は、全連小大会の提言が当たっていた関係で、第 8 分科会「リーダー育成」の運営者として参加させていただいた。

渡島地区の趣旨説明と研究発表が、たいへん具体的で共感を生む内容であったため、グループごとの話合いも活発になり、実り多い分科会となった。ルーキー期、ホープ期、ミドル期、ベテラン期等のキャリアステージに応じた人材育成の重要性について、参加者が話合いを重ね、各地区に良い刺激をもって返ったのではないかと感じている。

後志地区　古平町立古平小学校長　三浦　卓也　理事

第 11 分科会では、研究課題を「社会形成能力を育む教育活動の推進と校長の在り方」とし、宗谷地区校長会の研究発表を軸として協議が行われた。

研究発表では、猿払村立鬼志別小学校の藤田校長より、地域コミュニティの核となる学校づくり、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を高めていく教育課程の編成等について発表があった。

枝幸町立枝幸小学校の桜井校長からは、キャリア教育にかかる実態把握や分析、小中連携によるふるさとキャリア教育、幌延町校長会や稚内市校長会の取組などが報告された。

研究協議では、二つの討議の柱をもとに熱心な意見交換・協議がなされた。柱 1「キャリア教育の視点で教育活動をとらえ、教育課程を編成していく上での校長のリーダーシップ」の中では、キャリア教育推進に係る教職員への意識付けや地域の教育課題の明確化、教育課程への位置付けなどが話題となって協議が進められた。柱 2「社会形成能力を育む教育活動の推進における、地域との連携を図る校長の役割」の中では、福祉施設との連携の有効性や地域との連携強化に向けた教育活動のスクラップ＆ビルド、校長自らのネットワークづくりの必要性などが話題となって協議が進められた。

今後の課題としては、「社会に開かれた教育課程」の具現化のための目標やビジョンの共有、「スクラップ＆ビルド」で教育課程を見直す、「人材育成」の推進、キャリア教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現の 4 点が挙げられた。今後、校長は、こうした課題の解決にリーダーシップを発揮しながら一人一人のキャリアと自己実現に向け、学校ごとの特色を生かした教育活動の改善・充実を図る必要があることが確認された。

空知地区　岩見沢市立中央小学校長　喜多　慎治　理事

第 10 分科会に参加し、趣旨説明と分科会のまとめを担当した。「危機対応」をテーマに、「様々な危機への対応と未然防止の体制づくりにおける校長の在り方」を研究課題として、熱心な討議が繰り広げられた。

いじめ不登校や暴力、体罰、児童虐待、等の生徒指導上の事件、事故の未然防止に向けた学校の危機管理体制をどう構築するかという視点で討議を進めた。

分科会討議におけるグループ分けについては、運営の先生が地域や学校規模を考慮して編成してくれた。様々な事例や対応、改善策が示され価値ある討議となった。

一方、危機管理体制の構築という話になると、話が危機対応全般に関わり、やや抽象的な議論になった。前段の趣旨説明において、第 9 分科会の学校安全・防災教育と、第 10 分科会の危機対応における討議の視点を明確にし、焦点化した議論を進めていく必要があった。

討議の中に、いじめや不登校の事例を基にした討議、解決に向け、どのような組織的対応を行うか、いじめ・不登校の解決や未然防止に向けた体制づくりを校長として進めるか、といったことをみんなで話し合う、ワークショップ的な要素を取り入れていくことも、一つの方法かと考えられる。

このような事例研究については、空知校長会の研究大会の中でも行われている。地域性や学校規模に関係なく、共通した事例を検討することは、個々の校長としてのスキルアップにつながるのではないだろうか。